

5 令和7年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校内評価を実施しましたので報告します。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒が自ら学び続け、自己実現を可能にする確かな学力と探究力を育成する。 ②幅広い教養とグローバルな視点を基盤とした課題発見・解決能力や、自分が生きる未来を考える力を育成する。	①全ての教科で探究的な学びの機会を設定し、生徒が探究の手順を繰り返し経験できるようにする。 ②全ての生徒に対し、学習機会の多様化を考慮した校内環境の整備を行う。	①(1)問いの設定(2)見通し(3)対話協働(4)振り返り これら一連の学習経験を単元等のもとまりで行うとともに、事前に提示した評価基準で教員からフィードバックを行う。 ②県の指針に沿った多様な学習ニーズに応じた対応に関して校内規定の策定を進める。	①各教科の実践状況 ・第1回、第2回の生徒による授業評価の比較。 ・ルーブリック等の教員側の評価による達成状況の把握。 ②校内規定の文書化と対応生徒の進級状況を検討する。	①各教科でより能力を伸ばしやすいテーマを選択し取り組んだ。また、生徒による振り返り活動(リフレクション)の充実を促進することとした。第1回、第2回の生徒による授業評価を踏まえ、結果の振り返りを各教科で行い、科目による特徴や改善点を分析した。 ②多様な学習ニーズに応じた生徒対応を行った。これまでの対応を蓄積することで校内規定の策定に繋げたい。	①研究授業等、イベント的な取り組みではテーマを意識した授業展開がみられるが、日ごろの各教科における実践とその成果をみとる方法の確立が不十分である。各教科における「科学的思考力」の共通理解を深め、その評価方法について検討をする必要がある。 ②担任負担によるところが多い。異動に伴うノウハウのブラッシュアップを望む。	①今後も、各教科における「科学的思考力」の共通理解を深め、その評価方法について改善を図っていただきたい。また、「教科横断的」な思考が培われるようなことも検討していただきたい。 探究学習に関しては、外部へのチャレンジや外部との交流を進めてはどうか。	①各教科でテーマを決め取り組むことができた。生徒による授業評価の結果の振り返りを各教科で行った。科目による特徴や改善点を分析につなげることができた。生徒によるリフレクションの充実を促進した。 ②多様な学習ニーズに応じた生徒対応を行うことができた。様々な場面での対応を蓄積し、今後に繋げた。	①各教科における「科学的思考力」の共通理解を深め、その評価方法について検討を継続する。それぞれの教科での実践と評価方法の共有を図り、より充実した評価方法の検討を促進する。 ②今までの多様な学習ニーズに応じた生徒対応の蓄積を校内規定として整理する。
2	生徒指導 ・支援	①全ての教育活動において、生徒一人ひとりの意思決定を尊重し、自分も他者も等しく大切にできる力や人をつなげる場を作り出す力を育成する。 ②組織的な生徒支援を充実させ、生徒一人ひとりが安心して挑戦できる環境づくりをする。	①学校行事等、生徒が主体的に取り組む企画運営に対して互いに他者尊重に基づく言動を取り、規範意識を高めることができるようにする。 ②生徒支援を行う環境作り、共有認識を持ち、全職員で支援ができる体制作りを行う。	①学校行事を通し、他者尊重に基づいた言動をとり、規範意識を高めさせるような場を多く設定する。 ②職員研修を行うとともに、生徒の理解に努め、生徒支援ができる環境づくりを進める。	①緑高祭、体育祭後のアンケート実施。 ・他者尊重に基づいた言動をとることができた生徒の割合。 ②研修の実施状況 支援体制の様子 学年の情報共有	①緑高祭、体育祭実施後のアンケートでは「準備期間から当日までを振り返って、自分たちが楽しむだけではなく周りに気遣いをすることができましたか。」の質問に対しそれぞれ97.5%の生徒が「とてもできた」「できた」と回答した。 ②支援体制としてコア会議を設立し、学年での情報共有を教育相談の担当まで内容が共有できるように体制作りを行った。	①3月には合唱コンクールが控えており、引き続き他者尊重に基づいた言動をとり、規範意識を高めさせるような場を多く設定したい。 ②職員研修では、様々な生徒の対応について教職員が意識できるよう行えるようにしたい。本年度の体制をさらに連絡系統などを行いやすくできるように整備を続けていきたい。	①緑高祭、体育祭については、地域連携を含め多くの人が楽しめるような企画立案、運営などの力を養う場として、生徒の成長を期するものとしてほしい。 学校行事の運営に際して、規範意識と同時に他者尊重を促し、実現できているとの自己評価は意識の高さがすばらしい。 ②させる、やらせる生徒指導だけでなく、支える、支援する観点での指導を組織として、構築していてもraitたい。	①緑高祭、体育祭、合唱祭実施後のアンケートにおいて、「自分が楽しむだけではなく周囲に配慮できたか」の項目で9割以上ができたと回答した。また、合唱祭では、「周囲からの気遣いを感じたか」の項目でも9割以上が感じたと回答した。 ②支援体制としてコア会議を設立し、学年での情報共有を確実に行うことができた。迅速に教育相談の担当まで内容が共有できるように体制作りを構築することができた。	①学校行事を通して、他者尊重に基づいた言動をとり、規範意識を高めさせるような場を多く設定する。 ②支援体制の強化を図るため、情報共有を進め、学年の職員が同じ対応ができる状況をより強化する。他の学年の職員へ情報共有する体制の強化につなげる。職員研修を効果的に行い、学校全体での支援体制を確立する。

	視点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒が自身の生き方や社会のこれからを考える契機となる学びの機会を設定し、主体的に目標・見通しをたてることを支援する。 ②生徒が自ら選んだ進路の実現に向けて、あきらめずに自己効力感をもって取り組めるように連携して支援する。	②3カ年を見通してキャリアガイダンス・個別面談を体系化する。また、情報提供をこまめに行い、保護者が生徒の意思決定を見守り、サポートできる体制を強化する。	②キャリアガイダンスや実力テストに合わせて、個別面談を実施する。目的・内容を具体化し、生徒が主体的に高い目標を持ち、進路実現を目指すデータを提供する。また、保護者向け進路説明会で情報共有し、サポートを支援する。	②個別面談の状況 ・回数 ・進路実現を目指すデータの提供状況 保護者向け進路説明会 ・参加人数 ・進路実現につながるデータの提供状況	②3年保護者向け進路説明会を5月に実施し、一つ上の令和6年度卒業生の進路状況の詳細を説明した。特に合格率・第一志望進路実現率、欠席・遅刻数と合格率との関連など、校内データを活用して説得力のある情報を提供した。参加人数は162名であった。3年生への個別面談は模試の返却・キャリアガイダンス後も含めて、随時、各担任を通じて実施した。	②現1年、新入生の保護者説明会の時期を、収容できる空間・時間の制約を考慮して検討する。塾・予備校に通っていない生徒が安心して学べる進路支援を実行する。学年が進んでも進路志望があいまいな生徒に向けての進路支援の方策が課題である。	①社会的自立・職業的自立に向けた進路指導を展開していただきたい。そのためには1年次からの進路指導に向けてのガイダンス機能の充実を、保護者も巻き込んで、図っていただきたい。 ②従来から3年間を通したキャリアガイダンスを実施してきており、内容的にも大変評価できる取組である。探究的な学びの成果を進路実現につなげてもらいたい。	①個別面談等を通して、生徒が将来を見据えた進路実現に向けてじっくり考える機会を多く取り入れた。 ②3年保護者向け進路説明会を5月に実施し、多くの保護者の出席があった。合格率・第一志望進路実現率、欠席・遅刻数と合格率との関連など、校内データを活用した説明を行い、保護者が求めている情報を提供することができた。 3年生への個別面談を定期的・効果的に各担任が実施した。	①生徒が今後の生き方等を考え、進路選択をする契機となる学びの機会をより多く設定する。 ②3学年の保護者対象の説明会を継続して実施し、保護者が求めている情報をよりわかりやすく提供できるように取り組む。 2学年、1学年の保護者に対しても必要な情報提供を行う機会の検討を継続する。 生徒に対する支援をどの職員も確実に行える体制の強化をより進めていく。
4	地域等との協働	①地域や家庭と協働し、信頼される学校づくりを推進する。 ②外部機関や後援組織との連携を深め、学校教育の支援体制を充実させ、社会に貢献できる人づくりを目指す。	①本校の教育活動の様子を発信し、地域や保護者の理解を得る。また、緑高セミナーや地域の行事への参加等により連携を深める。 ②外部機関との交流を深め、生徒の充実した学習活動の機会を提供する。	①本校ホームページで情報発信を行う。また、地域の行事に希望生徒や教科、部活動単位で参加し、社会とのつながりを考える機会とする。 ②SSH事業に関わる新たに關わっていただく団体を増やし、活動の幅を広げる。	①情報発信 ・更新頻度 地域行事への参加 ・参加生徒数 ・地域の方のご意見 ・生徒の振り返り内容 ②連携企業・団体の数や連携企業・団体へ訪問した生徒数	①ホームページの構造図を作成し、各ページの担当部署を明確にすることで情報の更新が滞らないように意識づけを進めた。また、保護者へ伝えたい事項については昨年度に引き続き、プリント配付と同日にマチコミメールの配信を行った。 地域の秋祭りに計画段階からかわり、交流を深めた。 ②地域交流イベントの企画・運営までを生徒のみで行い、市域の人とのつながりが強くなったと感じる生徒が出始めた。また県内2社のラボ見学や学会の見学等新たな取組みを実施できた。	①ホームページについて。更新が滞っているページについては定期的に声をかけ、更新を促す必要がある。 地域の祭りについては、担当者と密に連絡を取り安全対策や本校生徒が参加しやすい日程の相談をし、今年度は30名ほどの生徒が参加することができた。 引き続き連携しやすい関係づくりをしていく。 ②地域交流企画は、まだSSH生徒推進委員会の生徒たちしか参加しておらず、学校内でより多くの生徒に参加してもらう工夫を要する。 外部連携団体について継続的に協力いただけるような体制をつくる。	①ホームページ等の更新を含め、よく取り組まれている。地域交流イベントの企画・運営までを生徒主体で行っていることも評価できる。今後も継続して取り組んでいただきたい。 ②「地域」を広く捉え、SSHやその他探究的な取組みをさらに充実させていってほしい。地域を代表する学校として今どんなことに力を入れているのかといった情報発信を積極的に行っていただきたい。 地域にとって若い力はとても大切。高校生の参画によって大人も動かされることがある。	①ホームページに掲載されている情報の管理を徹底して行い、必要な情報を迅速に提供できる体制を構築した。 必要な情報の提供や古くなった情報の更新等をこまめに行い、ホームページ全体を整理することができた。 保護者に対してもマチコミメール等を活用し、必要な情報を迅速に伝えることができた。 ②前年度よりも地域の行事への参加を増やし、生徒が地域の方と交流する機会を多く設定することができた。	①ホームページで提供している情報の管理を進め、学校から提供したい内容や必要とされる内容の精査を進め、より充実した情報提供の手段となるように取り組んでいく。 保護者への情報提供は、今後すぐえるを活用することにより、より迅速に提供できる体制を確実に構築する。 ②地域との交流する機会を増やし、より多くの生徒が参加し、交流を行う状況となるように継続して検討を行う。 外部連携団体との協力体制の強化を進める。

	視点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	①学校目標の達成に向けて、学校運営に全職員が主体的に参画するとともに、安心安全で信頼される学校づくりに引き続き注力する。 ②職員一人ひとりのWell-Beingを大切にした働き方の実現を目指す。	②オフィス改善を行い、安心して働きやすい環境を実現する。	② 全職員のオフィス改善への理解を深め、新しい環境での最適な働き方を検討する。	②・オフィス改善の達成状況 ・新しい環境への適応状況	②オフィス改善を通して、場所や空間を生み出すことができ、教員間の相談や生徒との相談の場所が増えた。また、これまでの物品の管理も整理することができた。	②これまでに使っていた物品やまだ整理できていない場所もあるので、今後、意見を募りながらより良い環境作りに努めていく。	①職員がそれぞれの強みを発揮して、やりがいをもって教育活動が行えるよう学校運営を充実させてほしい。 ②教員間の相談や生徒との語らいの場が増えることは、良いことなので今後も続けていただきたい。	①学校目標の達成に向けて、グループ業務を通して、学校運営に全職員が参画した。 ②オフィス改善を行い、職員室を整理し、職員の共用スペースの確保を行うことができた。 使用しやすい机配置等により、年度末の職員の座席移動についてもよりスムーズに行うことができた。	①学校目標の達成に向けた体制の強化をより進めていく必要がある。 ②職員室の共用スペースの確保等により、他の場所に移動したものがある。よりよい職場環境となるように検討を継続して行う必要がある。